

## EasyAdmin Reports Scheduler – KB4062

OpenLM EasyAdminウェブインターフェイスはライセンス使用状況に関する情報を表示する様々なレポートを生成します。

EasyAdminはこれらのレポートを次の方法でシェアします。

1. 非アドミンアカウントにレポートを見るアクセス権を与えます。
2. カスタム生成されたレポートのURLをシェアします。
3. 特定のユーザー、グループ、指定アドレスにEmailでレポートをシェアします。

特定のユーザー、グループ、指定アドレスにEmailでレポートをシェアします。

レポートは通常、ユーザーの要求やアクセスを通して手動で生成しますが、OpenLM Reports Scheduler拡張機能は管理者が特定のスケジュールに従ってレポートを生成する設定を行うことによってこのプロセスを自動化する事ができます。

目次：

1. 概略
2. システム要件
3. インストレーション
4. スケジュールレポート生成のEasyAdmin設定
  - 4.1. Email設定
  - 4.2. 受取人ユーザーのEmailアカウントの設定
5. OpenLM Reports Scheduler設定
  - 5.1. report\_scheduler.properties ファイルの編集
  - 5.2. 管理者認証の変更
  - 5.3. IIS, SSL及びWindows認証の場合
    - ケース 1 -IISでのEasyAdmin (HTTP/S)
    - ケース 2 - Windows認証の場合



## 6. OpenLM Reports Schedulerの使い方

### 6.1. リポートのスケジューリング

### 6.2. スケジュールされたリポートの管理

## 7. Chromeアップデートに伴うChromeドライバの更新

### 7.1. Chrome自動アップデートの停止

### 7.2. Chromeドライバの更新

# 1. 概略

リポートをスケジュールするには、OpenLM管理者は次の必要があります。

1. EasyAdminの“Email/SMS”モジュールで有効なSMTPサーバーを設定。
2. EasyAdmin認証を有効にし、EasyAdminのアドミンアカウントを持っていることを確認し、Reports Schedulerでそれを設定する。
3. 特定のEasyAdminリポートを開きフィルターを定義する。  
(例：ライセンス使用状況リポート)
4. シェアをクリック → スケジュールし、頻度や受取人を定義して保存をクリック。

一度設定すると、スケジュールされたリポートは指定された時間に指定された受取人に送られます。スケジュールされたリポートは画面上のリポートと同じデータを表示し、主な違いは自動生成されたかということだけです。最近の期間（例：過去7日間）で表示する日付フィルターが理想的です。

# 2. システム要件

OpenLM Reports Schedulerをインストールするには次の要件が必要です。

1. 中央ネットワークサーバーで実行されている単一のOpenLM Server
2. OpenLM Serverが実行されているマシンでChromeブラウザ80  
\* がインストールされている



3. Reports Scheduler拡張機能を含むOpenLMライセンスファイルが無い場合は弊社[営業](#)にコンタクトしてください。**EasyAdmin Administration** → **OpenLM Licenseウインドウ**

4. (オプション) デフォルトのReports Schedulerインストーラーに付属するOpenJDK11配布のインストールを選択しなかった場合、そのマシンにJAVA11の適用可能バージョンがなければなりません。

\* Chromeの新しいバージョンを使用するには、セクション7をご確認ください。

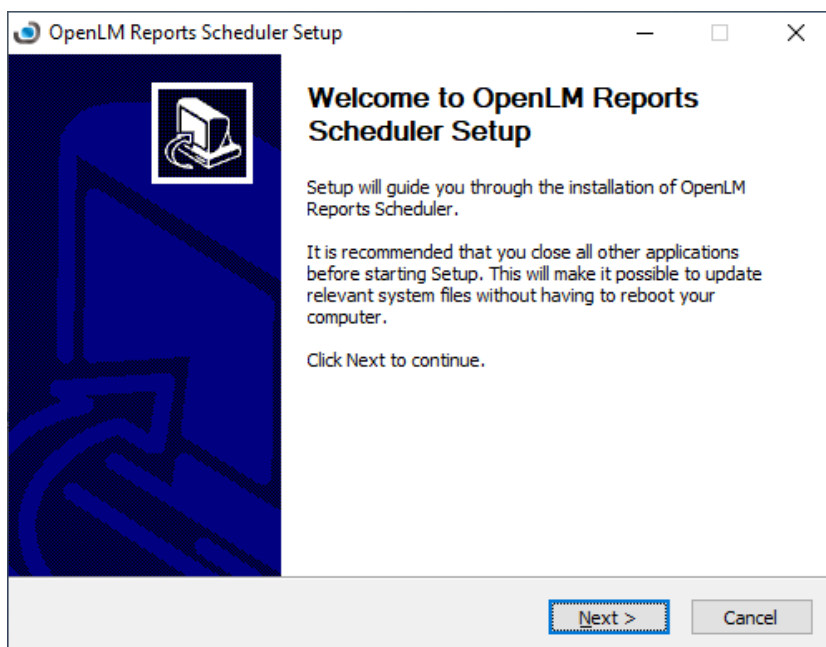
## 3. インストール

OpenLM Reports SchedulerはOpenLM Serverと同じマシンにインストールされなければなりません。

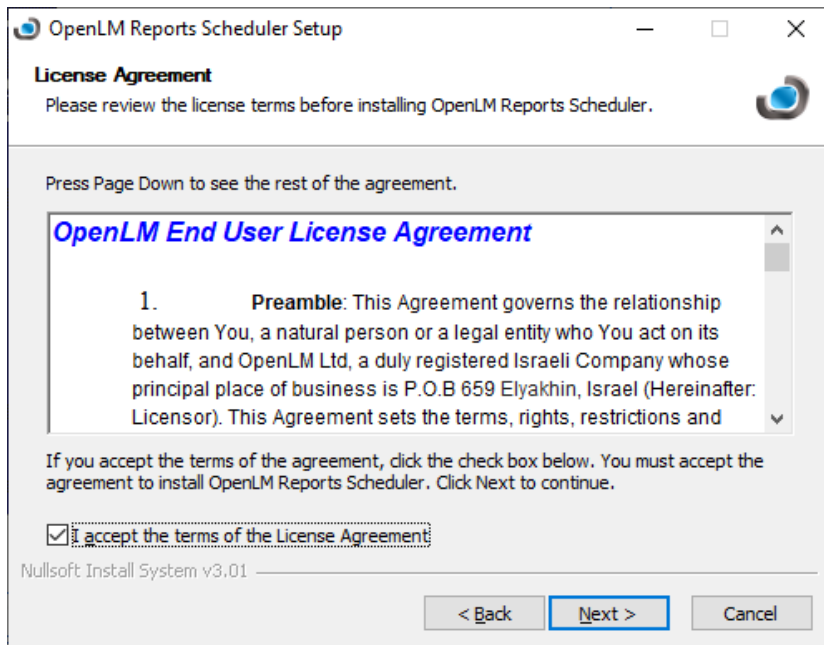
1. [ダウンロードページ](#)からOpenLM Reports Schedulerの最新インストーラーをダウンロードしてください。

2. インストーラーファイル

(**Openlm\_Reports\_Scheduler\_XXXX.exe**)をダブルクリックしてインストールを開始してください。インストーラーウインドウが現れます。



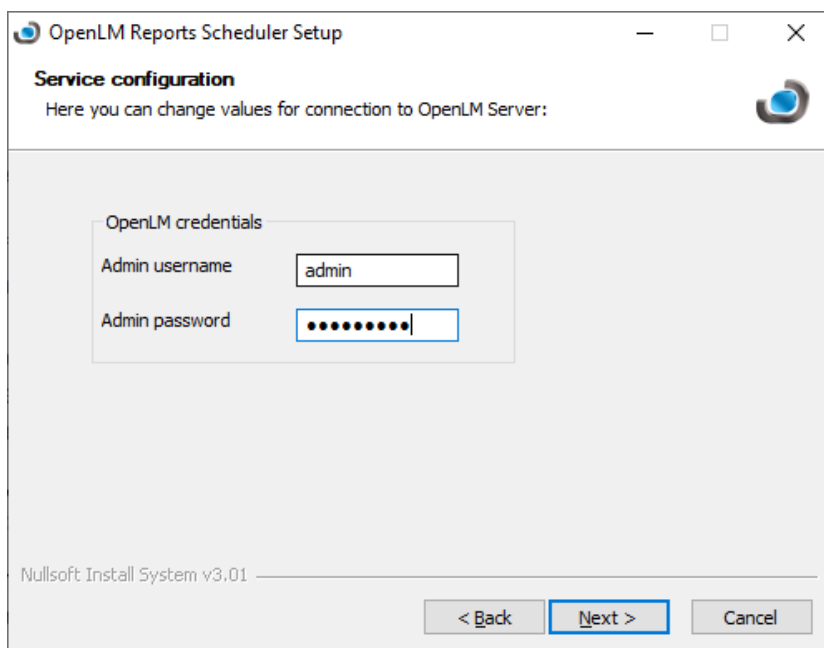
3. **Next (次へ)** をクリックしライセンス同意画面へ進む



#### 4. I accept the terms of the License Agreement (同意する)

ボックスをチェックしてNext (次へ) をクリック

5. Service configuration (サービス設定) 画面が現れます。

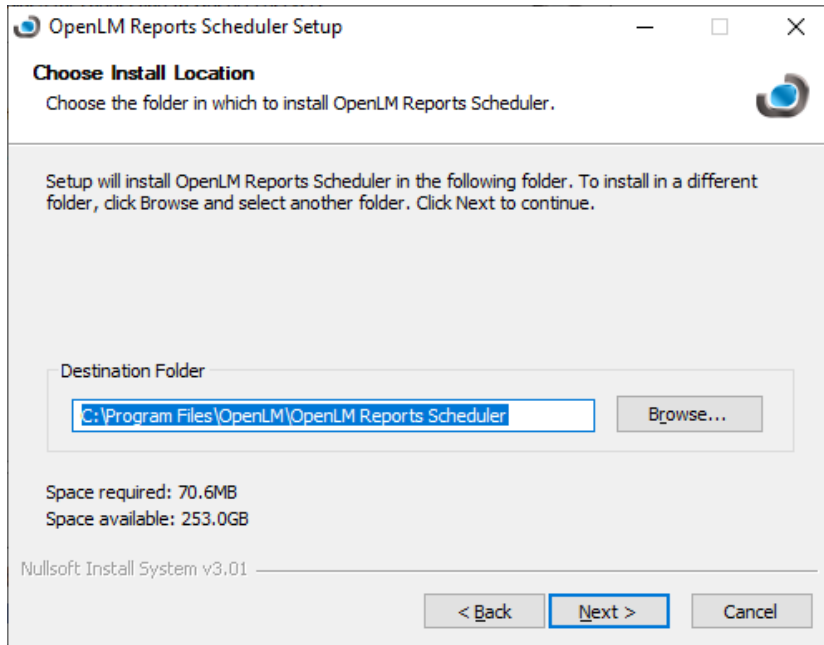


EasyAdminで認証を有効にしている場合、(EasyAdmin → Administration → System & Security)、以前設定した、アドミニストレーターアカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。

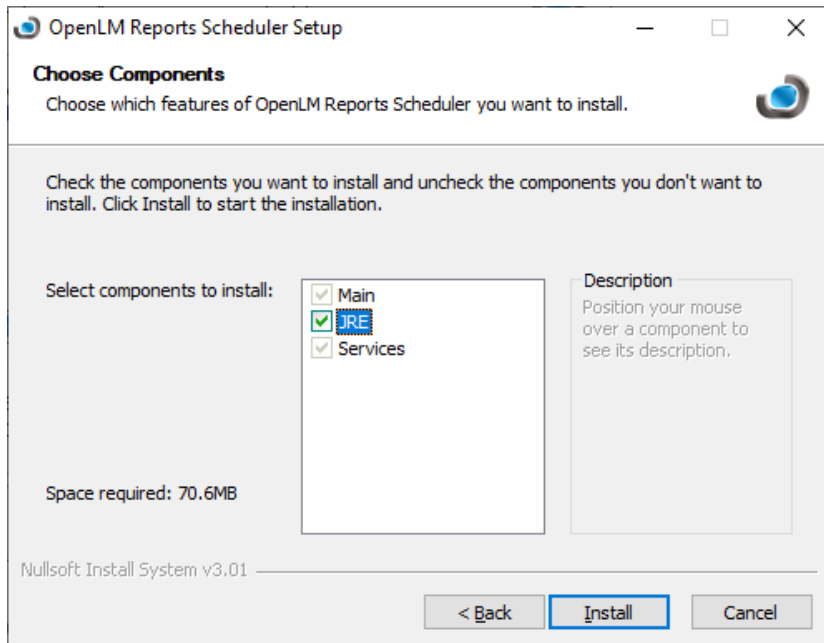
有効にしてない場合、空白のままNext (次へ) をクリック。

#### 6. Choose Install Location (インストール場所の選択) 画面

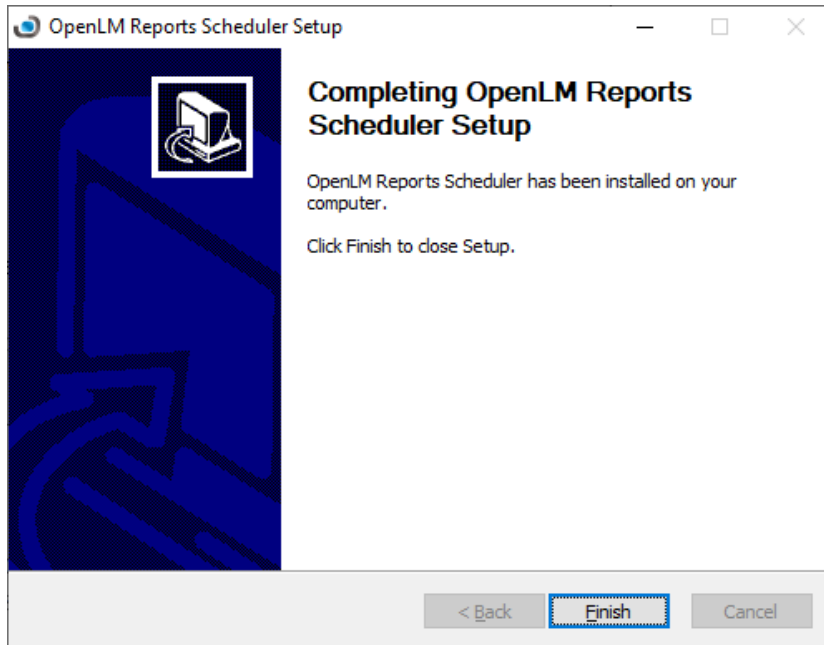
で、別のフォルダーを選ぶこともできます。しかしデフォルトを推奨します。Next (次へ) をクリック。



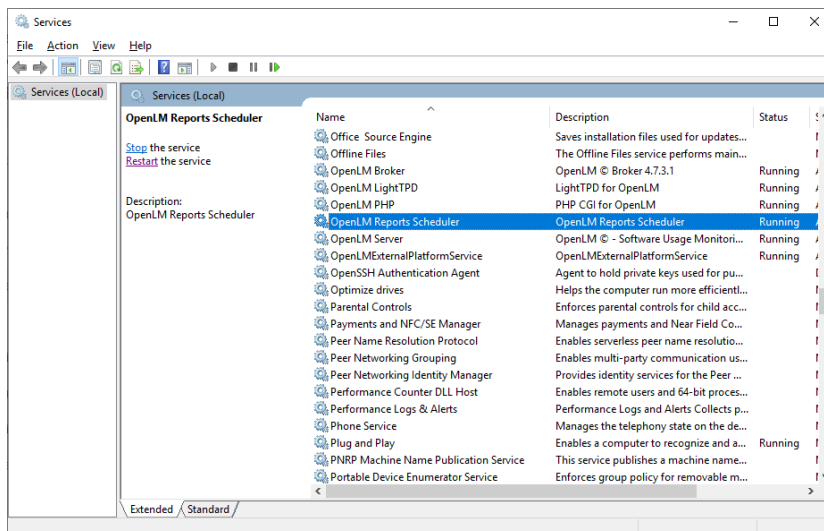
7. **Choose Components (コンポーネント選択)** 画面はインストールする必要があるコンポーネントを表示します。外部インストールのJave11を使用したい場合、JREはアンチェックしても大丈夫です。互換性の目的のため、デフォルト設定のままを弊社は推奨します。**Install (インストール)** をクリックしてください。



8. **Finish (終了)** をクリックしてウィザードを閉じます。



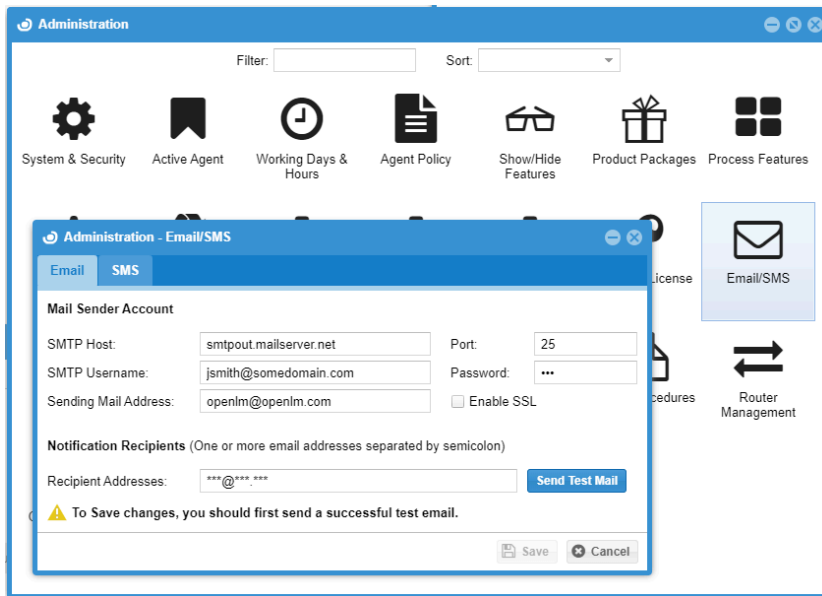
9. Reports Schedulerが実行しているか確認するには、Windows サービスを開いて、“OpenLM Report Scheduler”サービスが実行しているか確認する。



## 4. EasyAdminを設定してレポートをスケジュールする

### 4.1. Emailを設定

OpenLM Reports SchedulerはレポートをEmailで送るので、Emailサーバーの設定をしなければなりません。 **EasyAdmin Start (スタート) → Administration (管理) → Email/SMSモジュール**



受取人のアドレスに少なくとも1つは入力する事を高く推奨します。エラーが起きた場合ここに通知されます。

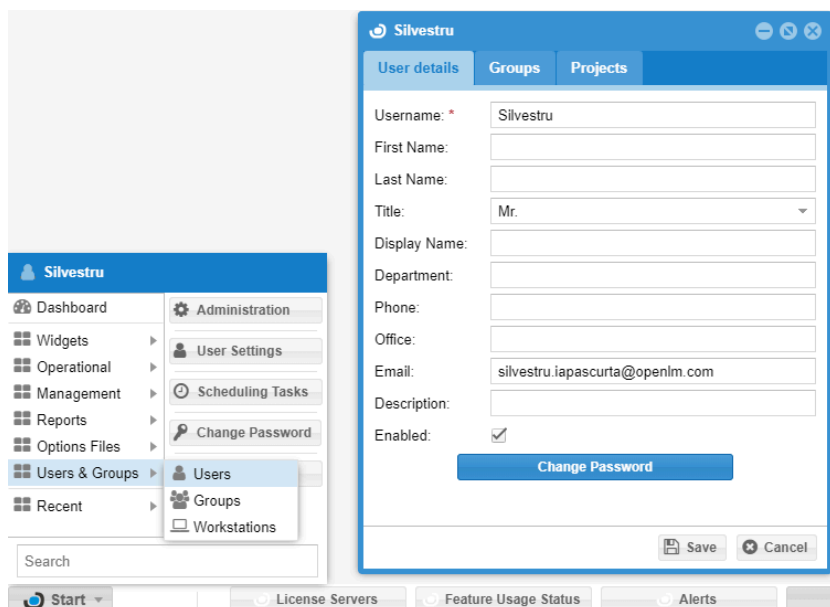
代わりに、ここでSMTPサーバーの設定がセキュリティポリシーや他の制限でできない場合、レポートスケジューラーのプロパティファイルreport\_scheduler.propertiesで詳細を手動で設定しなければなりません。(本書セクション5.1)

## 4.2. 受取人ユーザーのEmailアカウント設定

デフォルトで、スケジュールされたレポートは特定のユーザーに帰します。殆どの場合、このユーザーはスケジュールされたレポートを設定したアドミニストレーターです。この指定されたユーザーはOpenLMのデータベース内に存在し、関連する有効なEmailアカウントを持たなければなりません。

ユーザーのEmailを設定するためには、**EasyAdmin Start (スタート) → Users & Groups (ユーザーとグループ) → Users (ユーザー)** Emailを設定したいユーザーを検索し、下記画像で説明されたようにユーザーの情報を編集してください。





ユーザーや他エンティティの作成方法についての詳細は、[OpenLM のユーザー、グループ、IPやホストのエンティティ紹介](#)を参照してください。

## 5. OpenLM Reports Scheduler の設定

### 5.1. report\_scheduler.properties ファイルの編集

**report\_scheduler.properties** ファイルは Reports Scheduler の全設定を格納します。普通は、操作に必要な殆どの設定はインストール中に定義され、アップグレードの際も以前の設定が維持されます。このファイルを手動で編集する事は、セクション 4 のステップが実行されている限り必要ありません。

しかしながら、編集は可能で、特別な場合は逆に必須となります。

- もし SMTP サーバーが EasyAdmin で設定されていない場合。デフォルトでは EasyAdmin の SMTP 設定は **report\_scheduler.properties** ファイルの設定より優先されます。しかしながら、EasyAdmin で何らかの理由で SMTP が設定されていない場合、ファイルのメール変数が独立して SMTP を判別するのに使用されます。この利点は、OpenLM Server と Reports Scheduler の統合中にエラーが起きた場合アドミニストレーターはエラーメッセージを Email で受け取れることです。



- もしOpenLM Serverのホスト名やデフォルトの通信ポートが変わった場合（OpenLM Serverがインストールされたマシンとは違うマシンにインストールされた場合等）

次の変数がアドミニストレーターが設定するのに用意されています。

| 変数                  | 可能値                | 内容                      |
|---------------------|--------------------|-------------------------|
| mail.smtp.host*     | ユーザー定義             | SMTPサーバーホストかIP          |
| mail.smtp.port*     | ユーザー定義             | SMTPサーバーポート             |
| mail.smtp.auth*     | trueかfalse         | SMTPサーバーがログイン認証が必要かどうか  |
| mail.smtp.ssl*      | trueかfalse         | SMTPサーバーがSSL接続を使用するかどうか |
| mail.smtp.username* | ユーザー定義             | SMTPサーバーユーザー            |
| mail.smtp.password* | ユーザー定義             | SMTPサーバーパスワード           |
| mail.smtp.sender*   | ユーザー定義             | 送り主のEmailアドレス           |
| mail.recipients*    | ユーザー定義             | 受取人のEmailアドレス（セミコロンの追加） |
| openlm.host         | デフォルト<br>localhost | Reports Scheduler       |

|                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
|                       |  | が同期する<br>OpenLMサ<br>ーバーホス<br>ト名   |
| openlm.xml.port       | デフォルト <b>7014</b>  | OpenLM<br>Server<br>XML通信ポ<br>ート(V1.8<br>以降非推<br>奨)                                       |
| openlm.soap.port      | デフォルト <b>7020</b><br>( <b>OpenLM Server</b><br><b>v4.x</b> ) / <b>5015</b> ( <b>v5.x</b> ) | OpenLM<br>Server<br>SOAPポー<br>ト   |
| openlm.ea.port        | デフォルト <b>7019</b>  | EasyAdmin<br>用の<br>OpenLMの<br>Lighttpdポ<br>ート。IISの<br>場合はhttp<br>で80、<br>httpsで<br>443に変更 |
| openlm.ea.protocol    | デフォルト <b>http</b> か<br><b>https</b>  | EasyAdmin<br>通信プロト<br>コール。<br>httpか<br>https  |
| openlm.login.username | ツールで設定   | パスワード<br>設定ツール<br>で設定した<br>ユーザー名<br>(セクショ<br>ン5.2.)                                       |
| openlm.login.password | ツールで設定   | パスワード<br>設定ツール<br>で設定した<br>パスワード<br>(セクショ<br>ン5.2.)                                       |



|                                  |                                  |  |
|----------------------------------|----------------------------------|--|
| scheduler.report.files.directory | ユーザー定義                           | もしローカルの特定のディレクトリにレポートを保存した場合、ここで有効なパスを設定 |
| webdriver.impl.path              | デフォルト<br><b>chromedriver.exe</b> | Chromeドライバで違うパスに変更したい場合                  |

\*注意: 設定されてないと、Reports SchedulerはEasyAdminのSMTPサーバー設定を使用します。

## 5.2. 管理者の認証を変更

デフォルトで、Reports Schedulerインストーラーは暗号化されたフォーマットでプロパティファイルに*Service configuration*画面で提供された管理者認証を書き込みます。もしアドミニストレーターがこの認証アカウントを変更したい場合、パスワード設定ツールを立ち上げなければなりません。そうするには、

1. Reports Schedulerのインストールフォルダー内の **change\_password.bat** ファイルを実行してください。(デフォルト : C:\Program Files\OpenLM\OpenLM Reports Scheduler)
2. Reports Schedulerに接続を許可するOpenLMのアドミニストレーターアカウントログイン認証を入力してください。Reports Scheduler **バージョン1.10**から、Windows認証を使用している場合は、入力するアカウントはOpenLMシステムにログインアクセスのあるWindowsドメインユーザーでなければなりません。

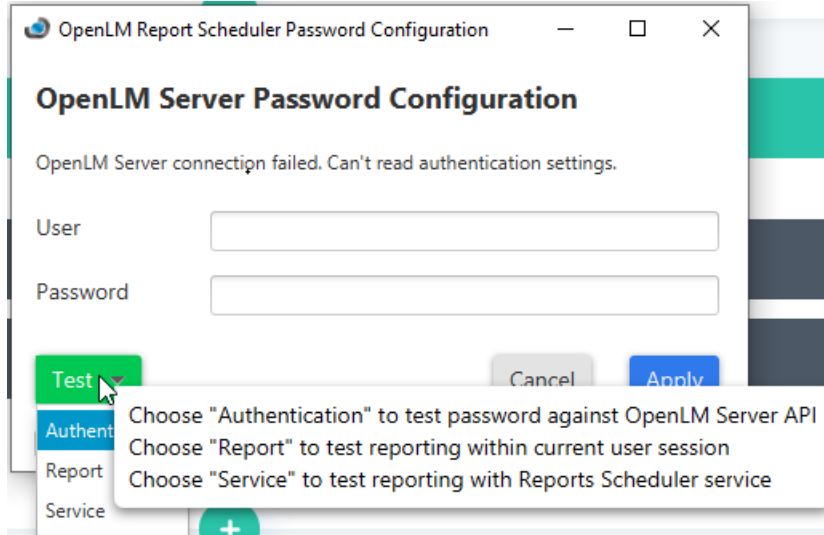
注意: バージョン**1.11.82**から、テストボタンは3つの機能に強化されました:

- **Change Password**ツールでテストレポートを送る。このオプションは新しいパラメーター**webdriver.debug.mode**と組み合わせ使用されます。もしユーザーが



report\_scheduler.propertiesでwebdriver.debug.mode=falseを webdriver.debug.mode=**true**に変更すると、レポート画面のキャプチャリングがユーザーのデスクトップで目視できるようになります。

- Report Schedulerの機能を実行してテストレポートを送ってみてください。



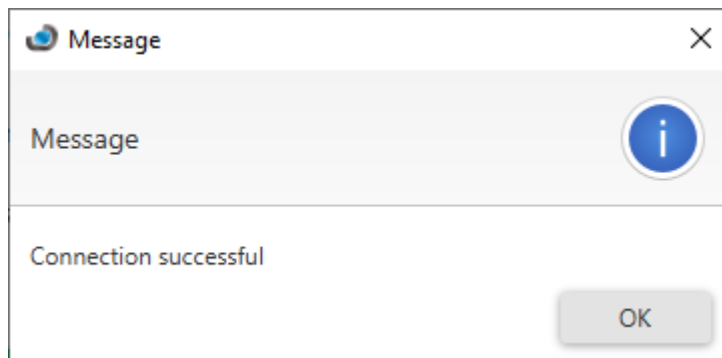
3. **Test** (テスト) をクリックしてお望みのアクションを選択してください:

**Authentication (認証)** – OpenLM Server APIに対してパスワードをテストしてください

**Report** (レポート) – 現在のユーザーセッションでレポートをテストしてください

**Service** – Reports Schedulerサービスでレポートをテストしてください

こちらは3種類のポップアップメッセージの1つです:



4. **Apply (適用)** をクリックして変更を保存し、現れた通知ポップアップで**OK**を押してください。

5. Windowsサービスウィンドウを開いて、**OpenLM Reports**



**Scheduler**サービスを探してください。

6. 右クリックして**Restart (再開)** をクリックしてください。

7. Windowsサービスウィンドウを閉じてください。

### 5.3. IIS, SSL及びWindows認証の場合

Reports Schedulerはレポートを生成するためにEasyAdminインターフェイスにアクセスする必要があります。IISやSSL接続やWindows認証を設定した場合、Reports Schedulerの設定を調整する必要があります。

#### ケース 1 – IISでのEasyAdmin (HTTP/S)

注意: IISのポートとOpenLM Serverバックエンドのポート（デフォルト：5015）の両方が同じプロトコルを使用する事が推奨されます。httpかhttpsです。混合すると適切なReports Schedulerの機能を妨げるセキュリティの限界につながります。

1. テキストエディターで**report\_scheduler.properties**ファイルを開いてください。

2. 次のパラメーターを編集し完了したら保存してください:

```
openlm.ea.port= 80 か443に設定  
openlm.ea.protocol=httpかhttpsに設定
```

3. (オプション)OpenLM ServerのデフォルトのAPIポートかプロトコールが変更された場合、**openlm.protocol** と **openlm.soap.port**パラメーターも変更してください。

4. (オプション)SSLがOpenLM Serverで有効にされた場合、**openlm.host**はSSL証明書で表記されたOpenLM Serverマシンの完全に有効なドメイン名を設定してください。

5. "OpenLM Reports Scheduler"サービスをリスタートしてください。

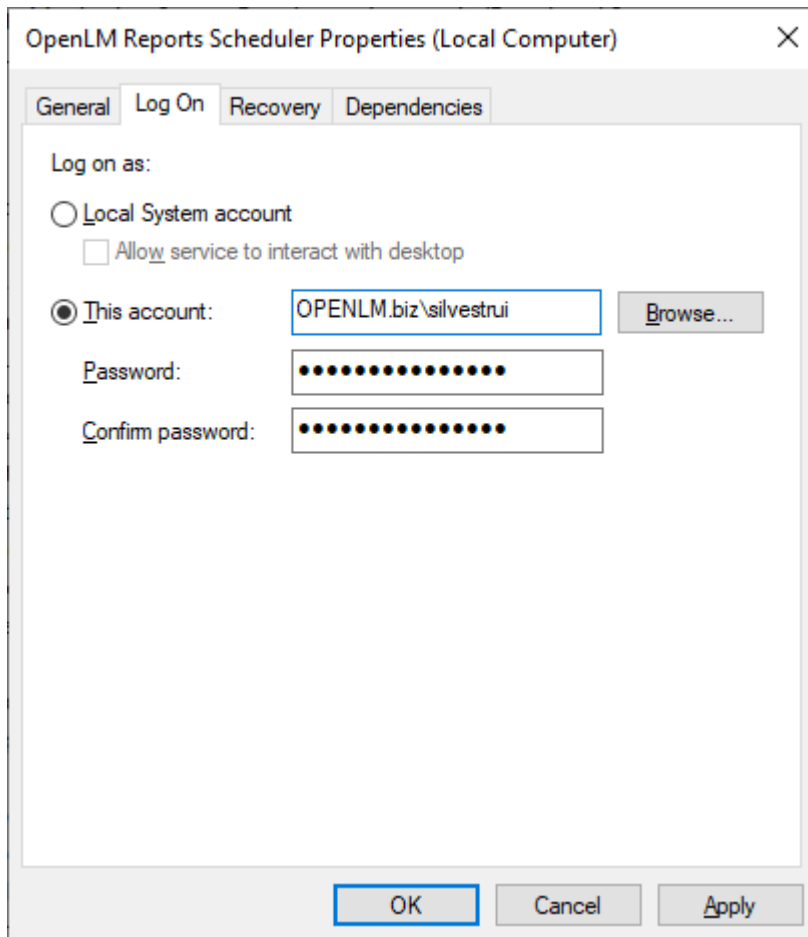
#### ケース 2 – Windows認証の場合

EasyAdminで信頼認証のオプションが選択されている場合、[こちらのガイド](#)をご一読ください。Reports Schedulerの設定を調整する必要があります。

**注意:** SSL無しでもWindows認証を有効にできますが、アカウントが晒されるのを避けるためにSSLの使用が推奨されます。この場

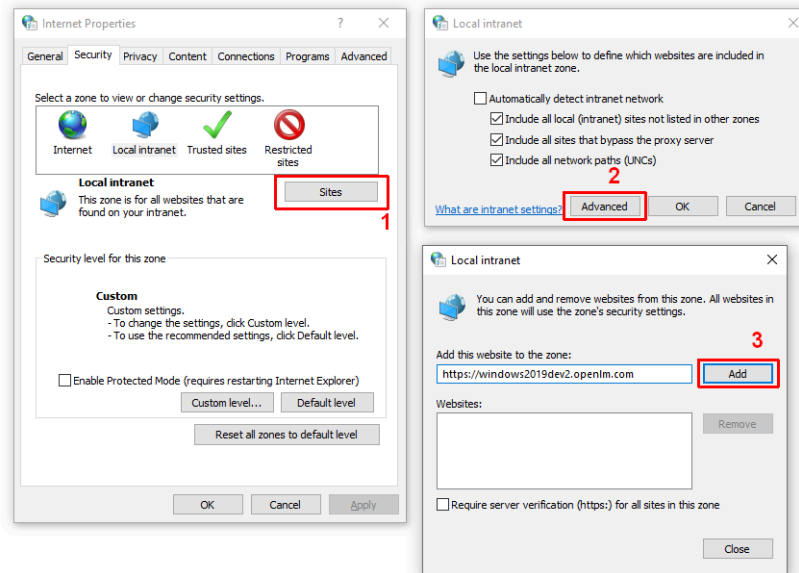
合、ケース1で説明された手順を次の手順に進む前に最初に踏む必要があります:

1. セクション5.2で説明されたパスワード変更ツールを使用してOpenLM Serverのアカウントの代わりにWindowsドメインのアカウントを設定します。
2. Windowsサービス → “**OpenLM Reports Scheduler**”をダブルクリック、**Log On**タブを開きます。
3. “**このアカウント:**”を選択し、**検索**をクリックし、次のユーザーを指定してください: 1)Windows認証が設定されたドメインに属するユーザー、 2)サービスを開始実行するのに十分な権利のあるユーザー。実際のユーザーと関係ない別のアカウントを作成する事が推奨されます。パスワードの有効期限ポリシーが期限が切れた時に影響する事を覚えておいてください。完了したら**OK**をクリックします。



4. ステップ4で設定されたユーザーアカウントでログインする傍ら、**Control Panel (コントロールパネル)** → **Internet Options (インターネットオプション)** → **Security (セキュリティ)** タブ → **Local Intranet (ローカルイントラネット)** → **サイト** → **アドバンス**
5. 次のフォーマットでOpenLM Serverのアドレスを入力してください。 **https:// + <SSL証明書に記載されている完全に有効なドメ**

イン名> その後**Add（追加）**をクリックします。



6. (オプション)Local intranet（ローカルイントラネット）がまだ選択された状態で、**Custom Level（カスタムレベル）**をクリック → **User Authentication（ユーザー認証）** → **Automatic logon with current user name and password（現在のユーザー名とパスワードによる自動ログオン）**

7. Windowsサービスで“OpenLM Reports Scheduler”サービスをリスタート

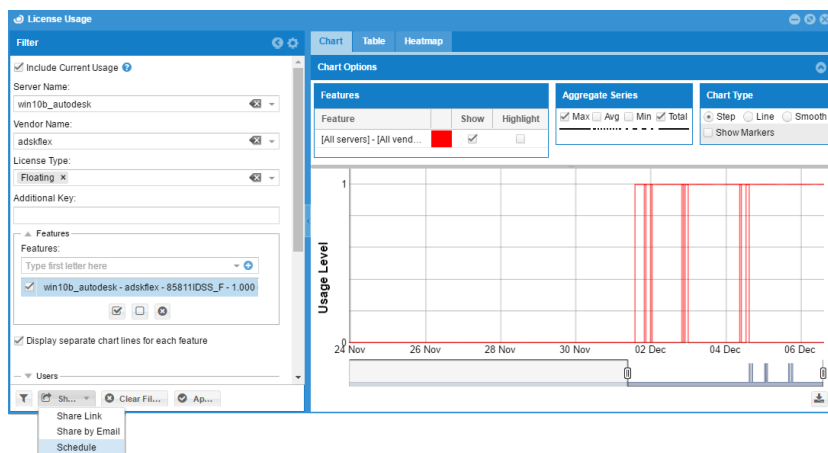
一旦設定されれば、少なくとも一度はレポートをスケジュールして全てが動作しているか確認してください。

## 6. OpenLM Reports Scheduler の使い方

### 6.1. レポートのスケジューリング

1. レポートをスケジュールするには、EasyAdminで目的のレポートを開いてください。(例 License Usageライセンス使用状況)
2. レポートのフィールド、フィルター、他オプションをご要望通りに設定してください。
3. レポートウインドウの左下の角にある**Share（共有）**をクリックして、**Schedule（スケジュール）**をクリックします。





4. **Schedule Report (レポートをスケジュールする)** ウィンドウが現れます。

設定の仕方

- レポートの頻度 (例： 毎週日曜日01:00 AM)
- 受取人: 既存ユーザー (複数)、既存グループ (複数)、直接の Email アドレス (複数)
- ジョブ説明： ここに入力した文章が Email レポートに表示されます。
- 受取人ユーザーのタイムゾーン： 受取人が OpenLM Server と違うタイムゾーンにいる場合、このオプションでタイミングを調節してください。

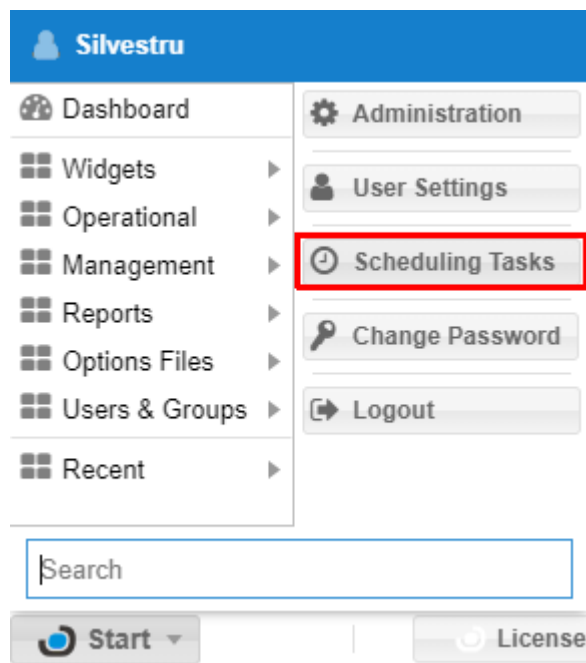
5. **OK** をクリックしてレポートを保存し、ウィンドウを閉じる

## 6.2. スケジュールされたレポートの管理

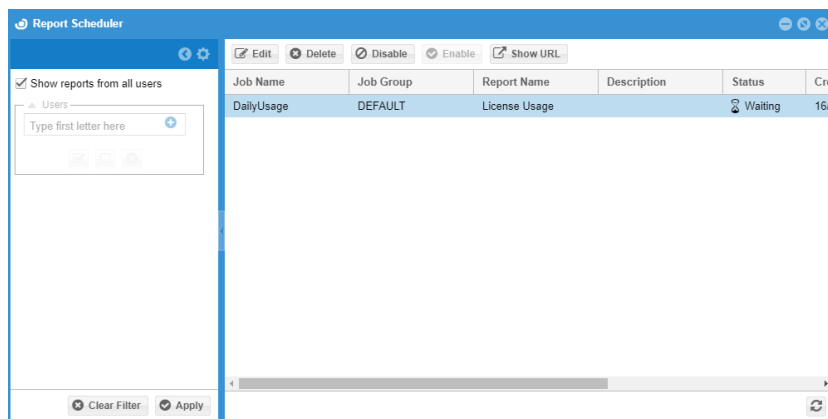


既に作成したスケジュールタスクの管理方法：

1. EasyAdmin Start (スタート) → Scheduling Tasks (スケジュールタスク)



2. ウィンドウで、修正したいタスクを選択してください。 **Edit (編集)**、**Delete (削除)**、**Disable/Enable (無効/有効)** や **Show URL (URL表示)** をご活用ください。 Show URLは、Share ボタンをクリックしてShare Linkを選ぶのと同じ機能です。



## 7. Chromeの更新に合わせてドライバ更新

注意: セクション7に進む前に下記をご一読ください:

- *Reports Scheduler*バージョンが**v1.9.8より前**の場合。セクション7の手順に進んでください。
- *Reports Scheduler*バージョンが**v1.9.8以降**の場合。Schedulerが必要な場合に自動的にChromeDriverを更新する機能を持っています。

ます。

- *Reports Scheduler*バージョンが **1.11.82以降** の場合。インストールされているブラウザに頼りません (例: *Chrome*)。ユーザーの必要性に従って適切に機能する能力を得ました。

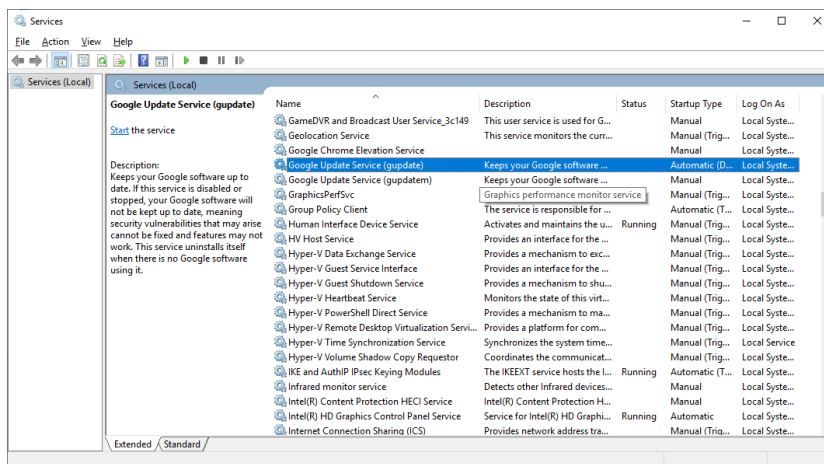
**v1.7.14**から、OpenLM Reports Schedulerはレポート生成のためにChromeDriverを使用します。これはReports SchedulerがインストールされたマシンにChromeブラウザがインストールされてなければならない事を意味します。

しかしながら、デフォルトで、Chromeは自動更新となっております。Reports Schedulerと一緒にバンドルされたChromeDriverはChromeと同じバージョンでないといけないため、これは問題となります。Chromeの自動更新が起きると(例: v80)、しかしChromeDriverが手動で更新されないままであると(例: v78)、Reports Schedulerは稼働しません。このため、Chromeの自動更新機能を無効化して手動でアップデートする事を推奨します。

## 7.1. Chromeの自動更新を無効にする

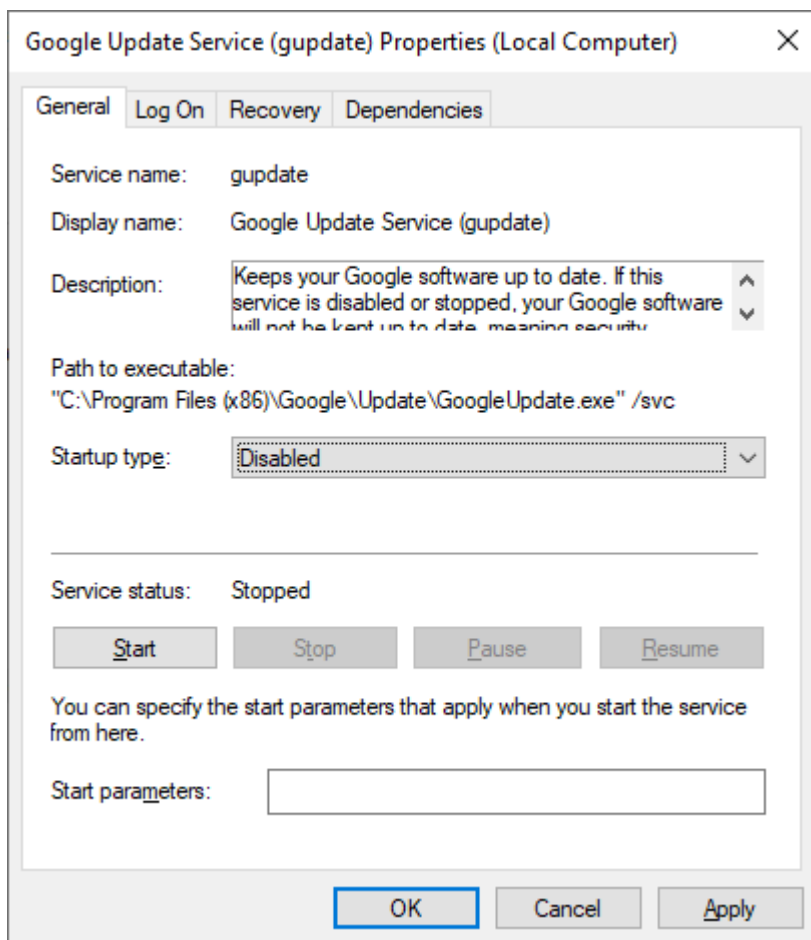
1. サービスウィンドウを開いてください。( **Win + R**を押し、**services.msc**をタイプクリック)

2. **Google Update Service (gupdate)** サービスを検索してください



3. ダブルクリックして **Stop (停止)** をクリックします (もしサービスが実行中の場合)

4. "Startup type" (スタートアップタイプ) のドロップダウンメニューで **Disabled (無効)** を選んでください。



5. **OK**をクリックしてください。
6. Google Update Service (gupdatem)にもステップ3 - 5を繰り返してください。
7. サービスウィンドウを閉じてください。

## 7.2. Chrome ドライバの更新

1. <https://chromedriver.chromium.org/downloads>を開いてください。
2. ご使用のChromeブラウザと同じドライババージョンをダウンロードしてください(確認するには、Chromeのメニューを開き、menu → Help → About Google Chrome)
3. Reports Schedulerフォルダー内の**chromedriver.exe**を新バージョンで置き換えてください。他の方法として、**report\_scheduler.properties** ファイルで `webdriver.impl.path` の値を新バージョンのドライバーを指すパスに編集してください。
4. OpenLM Reports Schedulerサービスを再開してください。

